

「その誰かを大切に思う人のために」

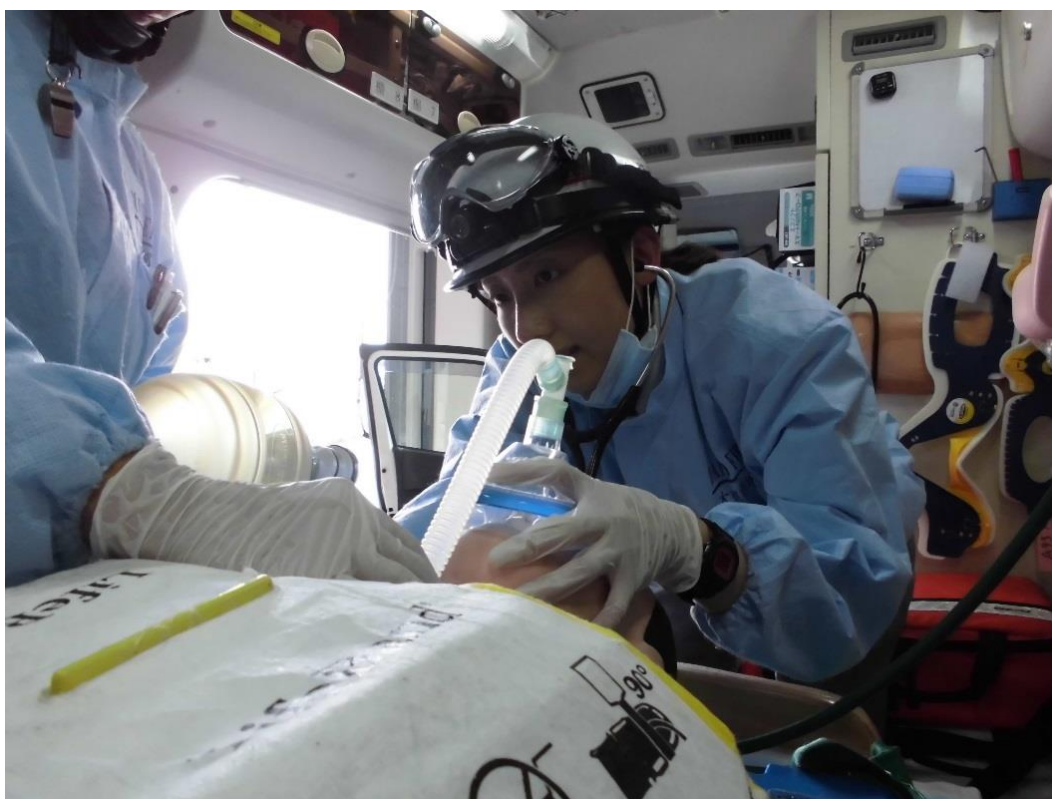
東分署救急隊 消防副士長 呉山 妙華（平成 19 年入職）

「幼い頃の事故で障害の残った兄を助きたい」それが救急救命士を目指したきっかけでした。その思いが、兄に限らず「誰かのため」そして「その誰かを大切に思う人のため」という思いへと繋がり、専門学校を経て救急救命士の資格を取得した私は、その資格を生かし人のために働くことが出来る消防の仕事を志望しました。



私たち救急隊の仕事は、突然の事故や病気で救急車を待つ人の元へ駆けつけ、必要な処置を行い適切な病院へ搬送することです。私自身が緊急車両を運転し、現場へ向かうこともあるのですが、安全に早く現場到着することは、その先の全てに繋がるので、緊急車両の運転時は身が引き締まります。

また、救急救命士は適切な判断や処置が求められますが、不安を取り除くことも大切なこととの思いから、不安を和らげるよう声掛けを励行しています。時には緊迫感のある現場もあり、人の命に携わる重みを実感しますが「ありがとう。」という感謝の言葉にこの仕事のやりがいを感じます。



私は、縁あってこの職場に採用されましたが、ここで出会った人達に随分助けられました。色々な形の優しさに触れ、今があり、これからがあると思います。受験される皆さんとの縁も繋がれば…。それは、皆さんの踏み出す一歩にあるのではないのでしょうか。

希望を持ち、その一歩を踏み出してみてください！